

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎!

TEL 03
(5950)
1771

東京都職業能力開発協会 会長賞 第27期生 谷口 智也さんに思い出と抱負を聞く 「最高の仲間に出会えた2年間」



3月23日、東京建築カレッジは第27期生の修了式を池袋校舎で行いました(修了生17人)。今期から来賓参加をコロナ禍前に戻し、修了式後は同じ会場で、祝賀会を行いました。卒業制作の「太鼓山車(たいこだし)」を使用した演出もあり、大いに盛り上がりました。最

第29期生は16人。高校新卒から50代まで 入学式翌日 4月4日から9日間の「集中授業」

東京建築カレッジ第29期生は16人です。入学定員20人の確保をめざして母体の東京土建と力を合わせて3月中旬まで募集活動をおこないましたが、前期比7人減の結果でした。高校・大学・専門学校の新卒者は前期の11人から7人に減りました。

* * *

東京建築カレッジのオープンキャンパス(学校説明会)に参加しても、大学・専門学校への進学やカレッジと連携しない企業への就職を選んだ高校生が複数いました。また、大工にあこがれてカレッジと連携する工務店でインターンシップ(就業体験)していた都立工科高校生(建築科)の一人は、大工・工務店業界への就職を親が反対したため、鉄道系建設会社に就職したそうです。若手人材の取り合いがますます激しくなっていることを実感します。

* * *

一方、伝統的な大工技術実習を中心に建築の本質を学ぶカレッジ教育を魅力を感じる人が多いのは事実です。ここを強みに、第30期生募集活動を4月から始めます。

技能照査実技試験 今年1月20日



うでしたか。相羽建設を就職先に選んだことがカレッジとの出会いでしたね。

カレッジでの2年間はとても楽しく、年齢関係なく一人一人が成長でき、最高の仲間とも出会えた2年でした。

工業高校生の進路はたくさんあったと思いますが、この道を選んだ理由は。

ものづくりが好きで、昔からあこがれていた大工さんになりたいと思ったからです。

カレッジ生活で印象に残った出来事、ベスト3を挙げてください。

1番は「奈良研修」地獄の夜、2番目は「卒業制作」、3番目は「技能照査(実技試験)」です。

当面の目標は?

まずは、戸建て1棟を任せられる大工になることです。

「建築の仕事をしようかな」と考えている人に、メッセージを。

建築の仕事をしようか考えてる人は、まずは何事にも直向きに自分の今置かれている状況や仕事に真剣に取り組み、何かしらの意味を見つけ極める。

カレッジに入ろうか迷っている人は、良くも悪くも良い2年間を過ごせるかは自分自身にかかっているのだやると決めた方には頑張ってもらいたい。

卒業制作の仲間と 3月9日



「久しぶりに すべてが優秀作品の年」 先生たちが絶賛 第27期生 卒業制作

派手なもの、動くもの、もちろん、カレッジで学んだことが生かせるもの、というコンセプトで制作した「太鼓山車(たいこだし)」。岐阜高山市に出かけ太鼓山車の現物を確認した後、設計に入りました。



灯笼(とうろう)

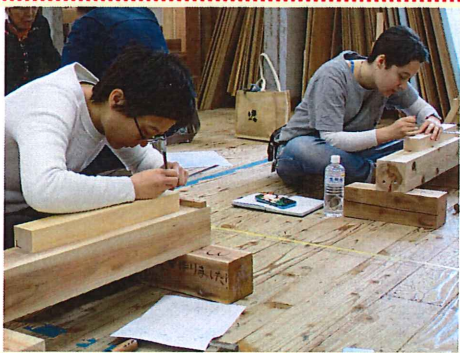


太鼓山車

(左) 木造りの灯笼、瓦の部分も木で手作り。
(右) プロ仕様のビリヤード台をめざしました。「球が流れるレールの勾配の取り方が難しかった」



ビリヤード



東京建築カレッジは年3回、オープンキャンパス(学校説明会)を江東実習場で開いています。カレッジ教育の最大の特徴である毎期の「実習棟」を見てもらいながら、卒業生講師が教育内容を説明します。

今年度から参加意欲を高めるため、毎回「ワークショップ」(参加者体験型イベント)を行うことにしました(定員10人、見学者は除く)。参加対象は「東京建築カレッジへの入学応募を検討している人とその同伴者(家族、友人、事業主)」に限ります。

開催日は、6月16日(日)、8月4日(日)、10月13日(日)。午前9:45受付、午前10時開会。ワークショップは先着順で申し込みを受け付け、定員になり次第締め切ります。参加無料。(上の写真は、今年2月4日のワークショップの参加者)



第30期生募集 ☆授業体験型オープンキャンパス 各回定員10人 事前参加登録制



第3回OJT報告会

3月16日実施の2023年度・第3回報告会では、全体会でプレゼンテーション技法を学ぶ一方、分散会で作業内容や悩みを交流しました。写真。

カレッジでは「二年間の学習目標」で5項目を掲げていますが、その中に「5、自分の考えを相手に正確に伝えることが出来るようになること」があります。OJT報告会はその訓練の場です。分散会は2年生が運営し、提示された課題に基づいて討論を進める方法も学びます。

カレッジ講師が避難所で活動



輪島市内の体育館
地震の被災地で、簡単に安全で快適な避難生活空間を実現するための強化段階「インスタントハウス」の設置活動を行っています。名古屋工業大学の北川啓介教授を中心に行っている活動です。